

午後2時9分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 今、議長より質問の許可を得ました10番議員の中島秀樹でございます。

最初は1番議員でしたが、もう10番議員になってしまいました。振り返ってみれば、早い議員生活、8年でございます。

私は未来の子供たちに対する責任を果たしたいというふうに考えております。そのためには議員として言葉の力を磨いていかなければいけないというふうに思っております。朝倉市議会議員として職責を果たしていきたいと思っております。

あとは質問席より質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告に従い、質問させていただきます。1番目が、親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市について、2番目に、コミュニティの高齢化についてを質問させていただきます。

では、1番目、親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市についてを質問させていただきます。

突然の御指名、質問で申しわけなく思います。副市長、日本版CCRC構想、御存じでございますでしょうか。最近ニュースで流れましたが、突然の質問で大変ぶしつけで申しわけないと思っておりますが、御存じであればお答えいただければと思っております。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 申しわけございません。寡聞にして存じ上げません。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 突然の質問で大変失礼なことを申し上げました。もし部課長の中で日本版CCRC構想、御存じの方いらっしゃいましたら、御答弁いただきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） CCRC、日本版と申しますように、もともとはアメリカの制度でございまして、これは高齢者が生き生きと暮らせるようなコミュニティをつくると、コミュニティのような大きな地域をつくるというものでございまして、アメリカでは大学と一緒に進めるというものでございまして、これが日本版ということになりますと、大学にとらわれずにさまざまな地域の団体とか、もちろん自治体も入って、そういう高齢者が住みやすいような地域をつくると。日本にも例えば長崎県とか、幾つかの例がござい

ます。そういうようなものだと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） さすが朝倉市の職員の皆さんです、突然の質問でもお答えができるというのは大変感動いたしました、すばらしいというふうに思っております。

繰り返しになりますが、今課長のほうからございましたように、日本版CCRC構想というのは、大都市の高齢者が健康なうちに地方に移り住むという構想でございます。これは政府が6月12日に開きました、まち・ひと・しごと創生会議の中で、地方創生基本方針の素案として出されたものでございます。

ニュースを見た方、いらっしゃると思うんですが、東京とかの大都市から地方に、東京では結局容量が、お年寄りの方が暮らす容量が少なくなりますので、ケアができないと。だから地方で過ごしたらどうですかというようなニュースはごらんになった方がいらっしゃると思います。私が記憶してるのでは、福岡県では大牟田市が、その候補に上がったというふうに思っております。

私はこのニュースを見まして感じましたことがあります。まず、このまち・ひと・しごと創生会議の座長さんは増田前大臣でございます。これは消滅可能性都市の座長を務めた方と一緒にございます。今までは朝倉市は若い人たちが少なくなるから、消滅する可能性がありますということ saying た方が、同じ方が今度はお年寄りが地方に移り住みましよう、そういったことをおっしゃってるんだと思います。

私が想像したのは、こういうことを想像いたしました。もし私が東京で住んでるんであれば、確かにこれから若い人たちが日本全体で少なくなっていく、地方から今までは若い人たちが供給されていましたが、少なくなっていくから、大都市の機能というのが維持できたけれども、人口は多いまま高齢化していく、そうなれば、当然老後は厳しいものがある。激しいことをおっしゃる経済学者の方なんかは、東京はスラム化すると言う方までいらっしゃいます。

そういった中で、もし私が東京に住んでいれば、これはまずいなと。元気なうちに地方に移住しとったほうがいいんじゃないかなと。また中年の私はそう考えますし、若いときでも、ずっと東京でマンションを買って東京で暮らすつもりだったけれども、それは大丈夫なんだろうかと、地方に移っていったほうがいいんじゃないだろうかと、そういったことを私だったら考えます。

私はこの流れというのは、ひょっとして朝倉市のチャンスになるのではないかというふうに考えております。政府が3月に閣議決定した少子化社会対策大綱に盛り込まれたのが、3世代同居、近居の促進です。待てよ、これはどっかで聞いたことある話だなというふうに思いました。そうです、森田市長がおっしゃられた親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市、これと一致するのではないか、流れが来ているのではないかというふうに私は考えております。

内閣府の調べでは、親との同居を望む人が20%いるというふうに言われております。市長、このマニフェストは、私はたしか市長、8年前に出されたものだと思えますけれども、まずはどういった思いで出されたのかを再度教えていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 親と子と孫と一緒に住む朝倉市という言葉につきましても、平成、8年前じゃない、22年の市長選挙の際に、私のパンフレットに書かせていただきました。実はこの言葉はずっと以前、これは年数は忘れましたが、塚本の先代の市長が、ある市長選挙のときに、表にはぼんと出されませんでしたけれども使われた言葉です。そのときから非常に私はそのことに共感を持っておりました。

そして、やはり特にこの朝倉地域というのがだんだん人口減少で高齢化してくる、そういった中で、やはり親と子と孫と一緒に住むことによって、例えばきょうも議題になりましたけれども、子育て等についても、やはり子供の、子供というか孫です、孫を施設に預けないでおじいちゃん、おばあちゃんに預ける、そのことによって例えばおじいちゃんもおばあちゃんも元気であるし、そういった非常にいい効果があらわれてくるんじゃないかなというふうな思いの中で、親と子と孫と一緒に住むまちということを申し上げておったわけでありまして。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は3世代が1つ屋根の下に住む同居も確かにいいと思うんですが、なかなか嫁しゅうとめの問題であったりとか、住宅のキャパシティーの問題であったりとか、難しいなというふうに私は個人的に思っております。

そういった意味で、私は市長も前、おっしゃってましたけれども、近居、近くに住む、これがいいのではないかと考えております。ただし、近居ですから、例えば親は朝倉市に住んでるけども、子供は隣の大刀洗町に住んでるとか、筑前町に住んでるとか、これでは私はだめだと思います。やはり親も子供も朝倉市の中に住んでいただく近居、甘木町と杷木町に住んでるとか、上秋月と馬田に住んでるとか、そういった近居がいいのではないかと考えております。

よく言われる言葉ですが、公助、自助、それから共助、ただし公助の部分は予算の減少であったり、職員の減少であったり、それから業務の複雑化であったり、これから余り当てにできない時代が来るのではないかと私は想像しております。それであれば、自助、共助、家族や地域の近所の人と助け合って生きていくという発想が生まれてもおかしくはないというふうに考えております。

福井モデルというのがございます。福井は同居率全国2位、共働き率は全国で1位、出生率は全国で8位です。働く母親が祖父母の支援を受けながら子育てをする環境が整っている、これが福井モデルでございます。私は近居をすることによって朝倉モデルという、言われるようなそういったモデルを市長はマニフェストに出していらっしゃると思いますので、

もっともっとブラッシュアップ、磨きをかけていけば、きっと時代の波に乗る、時代に合った政策になるのではないかというふうに考えております。

ただし、やはりその中には、具体的な具体論を盛り込んでいかなければなりません。例えば、静岡県の掛川市、子育てのために新たに3世代同居する世帯に最大50万円を買い物券で助成をするそうです。でも50万円です。結構大きな金額ですよ。こういったやり方がある意味、目立つような、そういった政策を幾つか打って行って、近居をするための政策を私は打っていかなければならないと思っています。

市長がマニフェストに挙げていらっしゃるんですけど、今朝倉市の中にこういった近居、同居を促進するための施策というのは何かありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 本年度から行っておりますリフォーム補助の中で、同居ではなくて近居ということで、市内の親子3世代であればということで、30万円、リフォーム補助という形で出す制度を設けております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私も資料、手にしてるんですが、朝倉市住宅リフォーム補助金ということで、この分でございますですね、10万円から30万円ということで、条件によって違うんですけども、確かにないよりはあったほうがいいんですけども、私はやはり先ほど言いましたように、若い人たちに注目をしてもらって、呼び込まないといけませんので、もう少し金額の上乗せなり、魅力あるもの、もしくは発信力があるものにしたほうがいいのではないかとこのように思っております。

私の同級生などは、親が介護が必要になったりとか、身体の調子が悪くなれば、都会に住んでいる私の同級生、子供のところに行くというパターンが多いようです。そして、そのときにはお父さん、お母さんがちょっと家賃補助とか、家を建てる、お金を出してやるから親が行くねと、都会のほうに転出していくような、こういったパターンが多いと思います。この流れを私は変えて、私も長男ですから、やはり親のことは気になっております。気になっていました。ですから、親のぐあいが悪くなったり、介護が必要になったり、そういったときには帰らないといけないという責任感がありました。

そういった中で、帰りたいと思うようなインセンティブになる、そういった施策というのが必要ではないのでしょうか。近居、同居は家計へのメリットもあります。土地代はもちろん、光熱費の節約効果も多いです。よく同じ敷地の中に御両親の家と子供さん夫婦の家が同じ敷地の中に建ってるのかというのがありますよね。また、朝倉市は土地代も安いですから、そういった意味でも節約効果は私はあると思っております。

そして、孫消費というふうに言われてますが、孫消費の拡大も大きいと思います。眠っていた高齢者の預金が消費に回りますので、経済の活性化も期待できると思っております。

今はやりの言葉でシックスポケット、両親と、そのまたおじいちゃん、おばあちゃん、祖父母が6人でお孫さんに消費をすると、そういったことが経済的な効果も私は大きいと思います。ですから、どうしても子供さんを朝倉市に呼び込む、こういった施策が必要ではないかというふうに思っております。

子育て支援は、介護をしてもらう、面倒を見てもらう、気遣いをしてもらう親にもメリットがあるし、また子育て支援を期待する若い夫婦にも、双方にも私はメリットがあると思いますので、近居をきっと選ぶはずだというふうに思っております。

市長、この考え方、いかがお考えでございますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） インセンティブでそういった形をやらんかということでありませけれども、もちろん1つの考え方であろうというふうに思います。

ただ、やはり都会で暮らしてた若い人たちが、この朝倉市で住んでいただくためには、やはり働く場というのが一番大事なんだろうと思います。ただ50万円やるから、何もなしに来るかといったら来ません。ただ、1つの市の姿勢として、そういったものを大事にするんだという姿勢を示すという意味では、非常にいいことじゃなかろうかなというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 市長が今おっしゃいましたように、確かに働く場がないと現実に生きていけないといけませんので難しいというのは重々わかっております。しかし、働く場は急にはやはりできないといえますか、ある意味、市の力ではどうしてもやはり事業主が決めることですので、コントロールは私は難しいのではないかなというふうに思っています。そうであれば、市の段階でできることをやるのが私は早道、そしてアナウンスメント効果じゃないですけども、そういった朝倉市は若い人たちに来てほしいんだよと、そういったメッセージを贈るような政策というのを出していくべきではないかなというふうに考えておりますが、副市長、総務部長、どんなふうにお考えでございますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 今、中島議員おっしゃいましたことにつきましては、私ども内部で地方創生本部のほうでこれから検討していくべき内容かと思っております。その中に定住に関する部会も設けておりますので、その中で若い職員のメンバーとかも含めましたところで十分検討していくと、その上でなおかつ情報発信ということも必要かと思っております。これはまだ緒についたばかりでありますけども、市のホームページの中に定住、移住に関するコーナーを設けております。ここの中で市外の方たちが移住、定住、こういった場を、住まいを検討する際に参考になるような情報、これをまとめて発信をしているところでございます。この中に、例えば県の宅建協会等とも連携をいたしまして、そういった物件情報とかも含めております。今後さらに、この定住、移住のコーナー、内容を充実

させて発信に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 物件の紹介というのは、住もうと思ったら、確かに物件がないと住めないんですが、私はその物件を探す前に、朝倉市に帰ってこようと思うような、きっかけとなる、そういった政策をどっかで踏み込んで出さないといけないんじゃないかなというふうに思っておるんですが、総務部長、どんなふうでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） たまたまきょうの朝、私も例えば市外の人が朝倉市に入ってくる場合、幾らだったら来るとかなと、そういう話、ちょっと考えてまして、課の部下のほうに聞きまして、私はずっと財政おりましたので、どうしても損得を考えてしまいます。私は50万円払ったら朝倉市に幾ら入ってくるとかなと、たまたま聞いたのは40代の職員でしたけど、夫婦共働きで子供さんがおると。朝倉市で得になるのは、入ってきまして、単純な親子ではなくて、入ってきたという前提でございますけど、市県民税がじゃあどれぐらい落ちるのかなと、そしたら大体20万円ぐらい入るのかな、1年間で20万円、そして、じゃあこちらが出すのが幾らなら来るだろうかと。そうしたときに、自分で考えますと、転居費用ですとか、アパートの費用1年分持ったら来るのかなとか、それがいろいろ考えておりましたけど、結果的に結論は出し切っておりません。本当になるかどうかというのは、今先ほど副市長が言いましたようないろんなケースを想定しながら、本当に朝倉市に得になるかどうかというのを検討していかなければならないと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今部長のお話だと、転居してこられまして、税収の上がりといえますか、ふえる分が単純に20万円ぐらいだというお話だったんですが、1人当たり。私はそんなに少ないのかなというふうに思うんですが、住民税の部分だけということですか、市民税の部分だけですね。

私はやはり人が入ってこれば、長い目で見ればそれなりの税収効果といえますか、経済効果、もちろん税収も上がりますし、経済効果もあるというふうに考えております。そういった意味では、50万円というのは確かに気前のいい話かもしれませんが、長い目で見れば安い買い物と言ったら変ですが、施策だし、とにかく人がいないことには話にならない。やはり市の存亡に関わる、それこそ消滅可能性都市になっておりますので、どうしても何としても呼び込むべきだというふうに考えております。

経済効果の部分で、1人朝倉市に入ってこればどれぐらいの効果があるか、こういった部分は数字としては市のほうではお持ちでないでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 正式に市のほうでは出しておりませんが、1家族、1年間の年収というのが約500万円程度ございましたら、その500万円全部が市内に落ちるわけでは

なかろうと思っております。いろいろありますけど半分程度かなと。これは全然根拠がある数字じゃございませんが、そんな程度かなとは思ってるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 済みません、今、ちょっと聞き取りづらかったんですが、もう1度お願いいたします、済みません。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 仮に年収500万円の方が入ってこられた場合に、通常でしたらその消費を市で500万円全部使うということにはならないと思っております。その中でいろんなことがありまして、市外で落とすお金もありますし、市内で落とすお金がありますので、市のほうとしてはそういう計算を、物理的に不可能でございますので、私の感覚的なもので申しわけありませんが、半分あればいいぐらいかなと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 年収の半分ぐらいの消費を朝倉市でするんではないか、経済効果があるのではないかとということです、私はもうそれで十分だというふうに思っておりますので、ぜひとも人を呼び込むような、そういった施策を打っていただきたいというふうに思っております。

祖父母の皆様にとってお孫さんのイベント、例えば入学式であったり、運動会であったり、そういったのに立ち会えるということは、私は豊かな人生といいますか、魅力ある人生を送れることになると思います。そういった意味でも、ぜひとも若い人たちを呼び込むような施策を市が音頭を取って強くやっていくということは、朝倉市の魅力を高めること、それから住んでいる方の満足度を上げることにもなるというふうに思っております。

市長、同居することのメリットといいますか、近居、同居、そういったものはどういったものがあるというふうに市長はお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 3世代が同居という意味だろうと思っておりますけども、メリットはいろいろあるだろうというふうに思います。まずは経済的な面で言いますと、やはり2つの家に住んでいるよりも1つの家に住んどったほうが経済的には非常によろしい。

それから、いわゆる子育ての面でも、やはり奥さんが夫婦共働きとするなら、やっぱり子育てについてもおじいちゃん、おばあちゃんの手が借りれる。あるいはおじいちゃん、おばあちゃんにとっては、孫と一緒にいることによって、子育てすることによって責任感が出てきて健康でおれると、そういったいろんなメリットがあると思います。

また、あわせて特に思いますのは、最近、保育園の子供の数が少ないです、大体2人。朝倉市は3人子供を持つ世帯が多いんですけども、夫婦多いですけども、やっぱり2人とか1人とか。そうやってきますと、最近特に問題になっておりますが、いろんな電子機器の発達でバーチャルといいますか、人の痛みがわからない、兄弟げんかもなし、親が大

事に育ててるといようなことで、私どもの子供のころは兄弟げんかして、それで痛さを知ったといようなところがあります。そういった面でも、やはりおじいちゃん、おばあちゃんのある程度、年とってますと、どうしてもおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなります。その死というものに直面することによって、子供の教育といえますか、そういったいろんな、そのほかにもたくさんあると思いますけど、いろんなメリットあると思います。

メリットだけで、デメリットも多少あるのかなと思いますけれども、メリットだけで言えばそういうこともいろいろあるんじゃないかならうかと思えます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 済みません、ちょっと通告にはなかったのかもしれませんが、今市長のほうから教育的なところの分でも3世代同居はメリットがあるということがありましたが、教育長、そういった3世代の部分でメリットというのは、やはり今市長がおっしゃったような部分もお感じになっていらっしゃるのでしょうか。突然の指名で申しわけないんですが、どんなふうでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 現在のように夫婦ともに働いてある家庭が多くなりますと、子供さんが学校から帰ったときに、お帰りと言ってくれるその家族がいると非常に安定するというふうに思っています。

また、おじいちゃん、おばあちゃんたちの生活の知恵をお手伝いをすることによって学ぶというふうな、いろんなことがあって、教育的には非常に望ましいことが多いと思っていて、私はこの3世代の同居という、また近居というのは、子供の教育のために、また大人が、おじいちゃん、おばあちゃんが元気になって、社会に参加していく気持ちを持つ上にも非常に効果があるというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 教育の面でも3世代同居、もしくは近居は効果があるということですので、やはり朝倉市は非常に面積も広くて土地もたくさんありますので、いいんじゃないかというふうに思っております。

繰り返しになるんですが、今から日本の高齢化が進んでまいります。都市部のほうではなかなか高齢者が住みづらい環境になっていくだろうというふうに思っています。人口が地方のほうに移らざるを得ないような時代が来るのではないかとこのように想像しております。若い人たちもやはりこれからは供給力が少なくなる、ある意味、社会がちょっと縮んだような、そういったイメージの社会が来るというふうに思っておりますので、たくさんのサービスが今までどおり受けられるかどうかは、私は疑問だなというふうに思っております。

そういった中で、共助や自助、そういった考えのもとに家族が肩を寄り添って住むというのは、私は理にかなっているのではないかとこのように思っております。家計へのメリットもある、

そういった3世代同居、3世代近居は、これからの時代の家庭像のサイクルの中で自然となくなっていくのではないかと。今までは核家族の時代でしたけれども、そういうふうに考えております。

この同居、3世代近居を推進していくような政策を、私は朝倉市としてもっと強力なもの、住宅リフォームで30万円の補助金が出るということでしたけれども、もっと強力な、そういった施策を打って発信を都市部にしていくべきだというふうに考えております。

では、次の質問に移らせていただきます。コミュニティの高齢化についてです。

ここで言葉の定義をしたいというふうに思っております。私が言いますこのコミュニティというのは、各区、振興会単位の区、こういったコミュニティを意味しております。隣近所のつき合いとか、そういった近所づき合いのコミュニティとかではなく、そういう行政区の単位のコミュニティということでイメージをしております。

まず、またこれも済みません、突然の質問で申しわけないんですが、2025年問題というのがございます。2025年問題を聞いたことがある方、もしいらっしゃいましたらお答えいただきたいと思うんですが、総務部長、聞いたことございますでしょうか。ないですね。

2025年問題というのは、団塊の世代と言われてます1947年から、広義の意味でいきますと51年生まれの方、この方が約700万人いらっしゃるんですけども、この方が75歳以上の高齢化になる、これが2025年問題でございます。簡単に言うと、一番人口の厚い層の方がぼんと高齢化してしまっ、社会で供給力不足が起こるのではないかという問題でございます。私はこの問題というのは2025年ですので、今から約10年後でございます。これは割かしすぐ起きる問題ではないかなというふうに思っております。身近に感じられるような問題が、すぐそこまで来てるのではないかというふうに思っております。

そういった中で、よく私が地元で耳にする言葉は、いろんな例があるとは思いますが、わかりやすい例として、環境維持の草刈りを挙げさせていただくんですけども、草を刈ろうにも、もう年寄りばかりで草を刈ることができないとか、年をとっているので、草刈り機自体が使えないというような話をよく聞きます。実際に私の近くの区では、今までは川べりの草を切ってたんですけども、もうこれからは切れませんので、もうそういった作業は県のほうでやってくださいと、公でやってくださいというような報告を出した区もございます。

そういった中で、私は高齢化によって地域の手足となる方がいらっしゃらなくなるのではないかと、もしくは環境が荒れていくのではないかとこのことを心配しております。今地域の、草刈りが一番わかりやすいもんですから、これに特化して言わせていただきますが、環境整備とか、こういった部分につきましては、例えば道路の里道であったりとか、市道であったりとか、山林であったりとか、河川であったりとか、こういった部分はどういった形で、誰が保守、もしくは整備をなさっているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 建設課長。

○建設課長（上野雅義君） 建設課の場合でございますけど、建設課で管理しておりますのは、市道、準用河川、普通河川、法定外の道路、水路でございます。今の質問につきましては里道でございますけど、里道の場合は、現在は地元の皆様の協力をもとに維持管理をしていただいております。少子高齢化が進む中、維持管理につきましては大変な困難な状況になっているということはお聞きしております。しかしながら、今後の課題としては、認識としておりますけど、現状といたしましては、やっぱり地域の環境を守る観点から、地元の皆様の協力を得て、今後も続けていただきたいということで考えております。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 農林商工部長。

○農林商工部長（末次和幸君） 農業部門のほうからちょっと申させていただきますと、農業振興課のほうで多面的機能支払交付金事業というのがございます。それと、それに似たもので中山間地域等直接支払制度の2つがございます。それぞれ地域からの申請によって朝倉市と協定を結びまして活動を行っていただくというふうな事業で、これは国庫の事業でございます。

多面的支払交付金事業につきましては、農振・農用地域で活動してあるところでございまして、耕作放棄地の防止、それから農道、水路等の草刈りや補修等を行っていただいております。

それから中山間地域等支払制度も同様なものでございますが、詳しくはそれぞれ採択要件でございます。活動の内容が違いますが。

事業の背景といたしましては、農村地域の過疎化、それから高齢化等によりまして耕作放棄地の増加、農道、水路等の保全、管理が困難になりつつありますので、農業、農村が持っている国土の保全、水源涵養等の多面的機能が失われていく危険性がございます。そのため、この事業の目的は地域の活動により農業生産の維持等を図りながら多面的機能を確保するというものでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 農林課長。

○農林課長（石橋一良君） 失礼いたします。山林のほうも出ましたので、山林につきましては、15年以上未整備の山林等、荒廃してる山林につきましては荒廃森林再生事業という県の事業がございますので、そちらのほうで市のほうと所有者のほうと協定を結びまして、森林整備に取り組んでる状況でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） いろいろな制度があるんだなというふうに感じましたが、私は昔は、各そういう農業施設なんかもそうなんでしょうけど、基本は受益者がいらっしやって、受益者の方が自分で自分の施設は面倒を見ると、そういったのが基本だったと思うんですが、例えば農業であれば、高齢化や担い手の不足なんかで、地域で結局面倒を見ましよう

と、それは地域にとっても1つの財産で、環境として見ていきたいと思います、こういうふう  
に流れが変わっていったというふうに思ってるんですね。

私の地元でも、農地水環境保全事業とかで、よくサラリーマンの方が、いや、自分は農  
業やってないんだけど、なぜそういうことをやらないといけないんだというようなお  
小言といいますか、愚痴を言われる方もいらっしゃいますけど、時代としてそういうふう  
に移っていったと思っております。

今、例えば地元の地域の環境は、地元の地域の人たちで、自分たちでやりましょうと、  
そういったのが基本的な考え方だと思っております。ただ、自分の地域は自分たちで守り  
ましょうという形でやっておりますけども、これが人がだんだんだんだん少なくなってく  
れば、私はそれはできなくなるので、そうなると思うと誰かがやらないといけないというふう  
に思っております。

私が想像しておりますのは、今はお金は出さないけれども体を出します、労働力を出し  
ますから、それでみんなでやりましょうという仕組みだと思うんですが、これからはやる  
人がいけませんので、地域でお金を出して、誰かにやってもらうような時代が来るのではな  
いか、誰かに請負を出すような時代になるのではないかと私は考えております。請負を出  
すにはいろいろな組織があると思うんですが、これだけ出すから安く地元でやってくださ  
いよという形で、お金を出すけれども、ちょっと安目で、このお金で、極端に言うと道路  
愛護とかをやってくださいよと、まさに農地水環境保全みたいな、それと同じような形が  
市レベルでも起きるのではないかとこのように考えております。

この点につきまして、ちょっと極論めいてるのかもしれないかもしれませんが、もう地域の担  
い手がいなければ、そういった形に私はなっていくのではないかと思います、どのよう  
にお感じになりますでしょうか、御感想を聞かせていただきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 地域で人がいないという、確かに高齢者の世帯で高齢者にな  
っていない場合、それから人はおるけど、先ほど言われましたように、何で私が市道の掃  
除をせないかんのか、そう言う方。またもう1つは、おじいちゃんと息子さんが住んであ  
るけど、普通の区のことはおじいちゃんのほうが出てきて、その方が高齢だからできない、  
そういうときに若い方の長男等が出てくれば人手はあると、いろんな場合があると思いま  
す。一番困るのは、1人お住まいで、高齢者だけになったような場合だろうと思いま  
す。そういう場合は、どうしてもそれは非常に難しい問題となります。

いろんな地域があります、朝倉市の中にありまして、金川地域も今そういう状態になろ  
うと思っておりますが、それ以前に、ほかの地域でも早く高齢化が来てる場所があつて  
ますが、そういうところは、今どういう形かで地域のそういう維持機能をされてると  
思っています。ですから、そういうところを私ども、どうしたらそういう高齢化され  
てるところでも地域が維持されてるかということをよく調べまして、そういうこと  
をおつなぎするとか、そういう

う形でなるべくお金で頼らないような仕組みづくりをつくっていくべきじゃないかなと思っています。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は今、総務部長がおっしゃられましたように、現実問題としてそういった事例というのが私は出てきているというふうに考えてるんですが、そういった事例というのは現時点としてあるんでしょうか。あったらちょっと教えていただきたいんですけども、部長、どんなふうでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 済みません、具体的事例は私は今申し上げることはありません、済みません。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は先ほど2025年問題というふうに申し上げましたが、本当にあと10年と言ったらあつという間だと思うんですけど、10年後には、今現役でばりばり草刈りをしてくださってる方も草刈りができなくなって、機械が使えなくなる。そして、やはり少子高齢化の少子ですので、実際に働く、そういう担い手世代という層が薄くなってれば、私はもうやってくれとか、何とか頑張ってくれとか言っても、もうできなくなるんじゃないかというふうに考えております。

そうすると、地域の人たちの要望として、地域ではできないから、公助、公の部分でやってくださいよ。回り回って、今まで市役所の皆様は、受益者に対して指導的な立場で、施設の所有者や受益者に対して、こういうふうにやってくださいという指導をすればよかったような時代だったと思うんですが、それが現場に行って、実際に草を刈らないといけなとか、そういった時代が来るのではないかと、現業職のニーズというのが高まって、現業職をふやさないといけないような時代が来るというふうに考えてるんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 確かに公助で各地域でする方がなくなったら、市のほうですることが当然のことで、もともと公共施設は市が管理するというのが基本でございますので、税金でするというのが基本でございます。

ただ、現実的にこの朝倉市の広いいろんな道路、農道、林道、これを全部公費でするというのはもう不可能なことでございますので、理屈はわかりますが、なかなか現実的には皆様方をお願いするというのが今の仕方がないようなところだろうと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） もちろんない袖は振れませんし、お金のなる木があるわけでもありませんので、予算というのは限りがあります。しかし、環境は維持しないといけない。しかし、人はいない。そういった中で、何とか地域の皆さん、頑張ってくださいとずっと

言い続けてても、どこかで私は無理がきてできなくなるのではないかなというふうに思っております。

そして、若い人が少なく、若い人たちに当然負担がかかってきますので、よく年金とかのモデルがあると思うんですが、年配の方を若い人たちがおみこしの上に上げて抱えているような、そういったよく図を見ると思うんですけども、それこそお年寄りが上に乗ってるのではなく、地域が乗ってて、それを本当に1人で抱えていくような、そういった肩車モデル、そういった形がこの面積の広い朝倉市では起き得るのではないかというふうに考えております。

そして、余りむちゃといいますか、ボランティアに頼っているようですと、若い人たちは、何も無理して朝倉市に住まなくてもいいと、自分はやはり気楽な都会といいますか、アパート暮らしがしたいというふうにして、逆に流出を招くのではないかというふうに心配しております。

そういった意味で、私がここで申し上げたいのは、そういったことがもう10年後に来ようとしておりますので、国は農地水環境保全事業という形で、そういった仕組みを考えました。今までは受益者がやったことを、地域全体でやりましょうというような仕組みを考えました。朝倉市も広いという特徴を持っておりますので、例えば各地域と協定を結んでどうこうするとか、そういったモデルといいますか、新しい仕組みというのを考えていかないと、環境の維持というのは難しいのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 確かに言われるとおりでございます、そういう市のほうで金銭面的な対応ができるものとして、今考えられるものとしましては、今制度としてあるものは、農地とか、そういうのは別にありまして、それ以外で現行の制度の中ではコミュニティ補助金というのがございます。地域のコミュニティ単位でお渡ししてるものでございますが、これはある程度、地域の意思で使っていただけるものでございまして、27年度から一部その用途を拡大いたしまして、こういうところでどうしてもそういうのに、清掃ですとか、そういうことであれば、それは使えるような形にまず変えております。それがまず対象になろうかと思えます。

それともう1つは、建設課がしております地域環境整備補助金というのがあります。これも地域ごとに額を定めて渡してるところでございますが、その中で、里道ののり面等の一部が認められるものにつきましては、それが対象になるというような形をしておりますので、現行の制度ではその2つが対象になろうかと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今までは使い道に縛りがかかってたのが、ちょっと緩やかになったと、そういったイメージでよろしいのでしょうか。

そうしましたらば、私はその部分について、確かに使い勝手がよくなった部分もあると

思うんですが、予算もある程度、総額の予算もふやしていかないと難しいのではないかと  
いうふうに考えております。今までほかに使ってた部分を削って、そちらにお金を回して  
いかないといけないから厳しいのではないかと思います、現実問題として、予算を総額  
をふやすと、その地域環境整備について、それというのは可能だというふうに総務部長は  
お考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 予算枠の増加は現在は考えておりません。現行予算の中で、  
地域がそれが最優先課題だということの場合は使っていただいたらという考え方でござい  
ます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そうしましたら、またこれもちょっと極論を言うようなんです  
が、私は使い勝手はよくなったけども、予算は金額としてはふえないと。そして地域が、  
人の層が痩せ細っていく、そのかわり環境は変わってないし、広大な面積がある。そうい  
った中では、やはり市のほうに公の公助の部分でどうかしてよというような申し出がこれ  
から私はふえていくのではないかなと思っております。

一方、職員の皆様は、業務の高度化であったり、人員を減らすような方向でございま  
すので、なかなかそういった現業である草刈りとか、そういったところに出向いていくとい  
うのは、私は難しいのではないかとこのように考えております。

今、実際に市の職員の方が現業するということはあるんでしょうか、ちょっとお尋ねい  
たします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 市の中で現業職というのは、環境課が行っておりますごみ収  
集でありますとか、あとは学校の給食と、一部学校の用務員とがございまして、市の職員  
が直接草刈りをするとか、そういうのはほとんどない、する場合は委託がほとんどですと。  
場合によっては、一部嘱託でしてる場合はあるそうでございますが、正規職員でするのは  
道路の清掃とかというのは今のところはないという状態でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今のところはないうことですが、私は将来的にはそれが求めら  
れていくような形になるのではないかとこのように考えております。そうなると、現業の  
嘱託職員とかをふやさざるを得ないような、そういった時代が来るのではないかとこの  
ように考えております。それは人件費の増額であって、時代の流れとは反するんですけれ  
ども、広大な面積を持つ朝倉市はそうならざるを得ないというふうに考えておりますが、  
この点についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 仮にそういう場合が来たという仮定の話でございまして、そ

ういう場合でも正規職員ではなくて、それは外部委託、民間でありますとか、委託をするとか、そういう形での対応になろうかと思えます、仮にした場合の話でございますが。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 将来の話で、仮の話で本当に恐縮なんですけども、しかし、あと10年後には来る話だというふうに私は思っております。そういった中で、選択をできるうちにある程度準備をしとくということは、私は大事なことでないかなというふうに思っております。

対策が打てるというのは、私はいいことだというふうに思っております。一番最初の質問の分でも有効な対策を打てば、まだまだ朝倉市の人口をふやす伸びしろがあるというふうに思っております。本当に行き詰まって、選択肢が少なくなるというのは、それは本当に不幸なことだと思っておりますので、早目の対処というのが大事だと思っております。

よく空、雨、傘というふうに言うんですが、きょうみたいな日なんですけれども、空が曇っていると、だから雨が降りそうだ、傘を持って行こうということで、私はきょう空の部分、現状をお伝えしたつもりでございます。そして、雨が降りそうで、こういうふうになっていくのではないかとということ申し上げさせていただきました。こういった傘を準備したらどうですかということも申し上げたつもりでございます。先の話で大変恐縮で、ちょっと現実感がなかったかもしれませんが、ぜひとも早目の準備をお願いしたいというふうに思っております。

以上で私の質問を終わらせていただきます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時4分休憩